

EDA Workshop 開催のご案内

SEMICON Japan 2018 におきまして装置データ収集(EDA)ワークショップ(勉強会)を開催します。このワークショップは、半導体製造装置のデータを収集するための仕様(EDA仕様)を規定している SEMI スタンドアードの内容について再確認し、議論していただくことを目的としています。

ワークショップは以下内容を含みます。

- EDA 仕様のアウトラインと考え方についての概説
- 疑問点や問題点についての意見交換
- 問題解決のための提案などの意見交換

皆さまにご参加いただけますようご案内申し上げます。

日時: 2018 年 12 月 12 日(水) 14:00~17:00

場所: 東京ビッグサイト会議棟 607 会議室

企画: EDA Working Group, Japan TC Chapter of Information & Control Global Technical Committee

プログラムチェア: 横河ソリューションサービス(株) 中川 隆
座間コンサルティング 坂本 見恒

ゲスト講師: Cimatrix Inc. Alan Weber
The PEER Group Inc. Albert Fuchigami

お申し込み: 以下ウェブサイトからお申込みください。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=3QuozL10F0-Obe7NC6xaArspDja_edVNo1ilwa97hZdUNkdTVzdNTjcyVks4MUcxWjdWTjlxSk5DSi4u

参加費: 無料

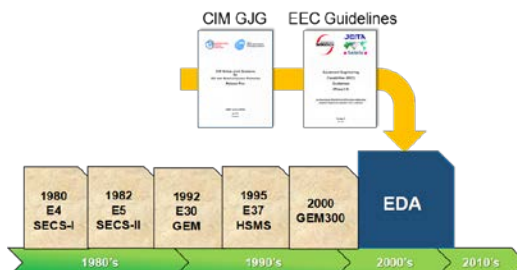
なお、このワークショップは SEMI スタンドアード活動の一環として開催されますので、ご参加いただくためには SEMI スタンドアードのプログラムメンバーに登録していただく必要があります。SEMI スタンドアードのプログラムメンバーは以下のウェブサイトから登録いただけます。無料でどなたでも登録いただけますのでよろしくお願ひします。 http://www.semi.org/jp/Standards/CommitteeInfo/ctr_028435

NOTE

- EDA とは、Equipment Data Acquisition (装置データ収集)です。
- EDA Working Group は、Japan TC Chapter of Information & Control Global Technical Committee の中に EDA 仕様を勉強し、議論するために設立されたワーキンググループです。このワーキンググループでは、既に発行されている EDA 関係のスタンダードを検討しています。

EDA の背景と状況

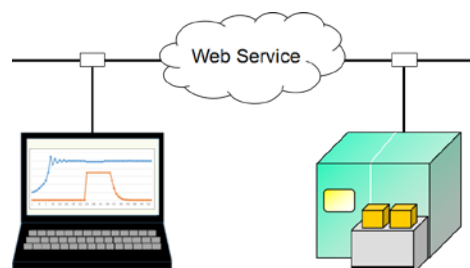
EDA スタンドアードは、デバイスメーカーの要請を受けて 2000 年~2005 年頃に初版が発行され、その後 2011 年までに第 2 版が発行されました。右の図で示されるように、EDA スタンドアードはそれまでに開発されたスタンダードで構築された情報と制御のモデルを背景に持っています。



- EDA 関係には以下の SEMI スタンドアードがあります。

| | 認証と権限管理 | データ収集 | 装置データ記述 | | |
|------|---|--|--------------------------------------|---|-----------------------------|
| 機能仕様 | E132 Client Authentication and Authorization (ECA) | E134 Data Collection Management (DCM) | E120 Common Equipment Model (CEM) | E125 Equipment Self Description (EqSD) | E164 EDA Common Metadata |
| 実装仕様 | E132.1 SOAP Binding for ECA | E134.1 SOAP Binding for DCM | E120.1 XML Schema for CEM | E125.1 SOAP Binding for EqSD | |
| 参照仕様 | E128 XML Message Structure E138 XML Common Component E145 Measurement Unit in XML | | | | |

EDA スタンドアードがそれ以前のものとは異なる点は、装置からのデータ収集にウェブサービスを適用していることです。ウェブサービスはインターネット上の情報通信に日常欠かすことのできない技術となっています。半導体製造装置でも EDA スタンドアードによりウェブサービスが実用されるようになりました。



- EDA スタンドアードの見直し

EDA スタンドアードについては、2011 年の第 2 版発行以後は見直しされてきませんでした。ところが最近改めて見直してみると、様々な疑問が沸いてきました。例えば、データを収集するクライアントの認証に適用する技術についての疑問です。ウェブサービスでのクライアント認証の技術には様々な選択肢があるようです。そのような状況で、現在 EDA スタンドアードに書かれていることが現実の環境で妥当なのでしょうか？異なる情報セキュリティ環境において、異なるクライアント認証を適用していることがあるかもしれません。また、このことに限らずスタンドアードの見直しを進めると様々な疑問が沸いてきます。

- EDA ワークショップ

SEMI スタンドアードは、問題、課題、またそれらの問題解決の知識を共有し、その結果合意されたことを文章化しています。SEMI スタンドアードについての様々な疑問を解消するためにも、まずは問題と課題、そしてその解決方法を話し合い、その知識を共有する場が必要になります。EDA ワークショップはその「議論をできる場」を提供するために開催されます。



以上